



幼 保 小 中 一貫教育プロジェクト

阿久比町中学生海外家庭生活体験事業

阿久比町では中学生海外家庭生活体験事業として、毎年、中学生をカナダに派遣しています。第24回目となる今回も、10人の生徒たちが8日間の海外家庭生活を体験してきました。参加した生徒たちは、あらかじめ研修テーマを設定し、現地での結果を報告書にまとめています。今回はその報告書をもとに、日本とカナダの違いや彼らのカナダでの体験をお伝えします。

■問い合わせ先 学校教育課学校教育係 ☎(48) 1111 (内1230・1231)

(敬称略)

【新海璃乃】

カナダの自然は、想像していたよりもきれいでしたが、実はごみによる環境破壊といったさまざまな問題を抱えているということを知りました。サーモンハイドクリークでの研修で、問題の解決のために努力している人がいることが分かり、とても大切な活動をしていると感じました。



【岡本弥里】

朝の登校後と昼の休憩時に、生徒は体育館で自由に活動することができました。それぞれがバドミントンをしたりバスケットボールをしたりするなどリラックスして楽しめる時間です。そのほか、月に1回、「ミサ」というキリスト教の活動をすることもありますが、ミサはお祈りをするだけでなく、みんなで歌ったり踊ったりしました。

【安井萌亜】

研修中に何度も「笑顔が笑顔を呼ぶ」ことを感じました。「相手に伝わる正しい言葉で」という考え方も大切ですが、笑顔で目を見てあいさつをするだけでも十分に気持ちは伝わります。不安だった私をホストファミリーは初めて会ったとは思えないほどの笑顔で、本当の家族のように迎えてくれました。私もホストファミリーのようにいつか笑顔でおもてなしができるようになりたいです。



【溝上 蓮】

今回の研修で、日本のあらゆるものが自分の体に合っていることを実感し、日本の素晴らしい文化や習慣について再確認することができました。日本の慣れ親しんだ生活が、心を癒す素晴らしいものだと感じました。しかし、カナダの開放的で少し大ざっぱな雰囲気的心地よさにも惹かれました。